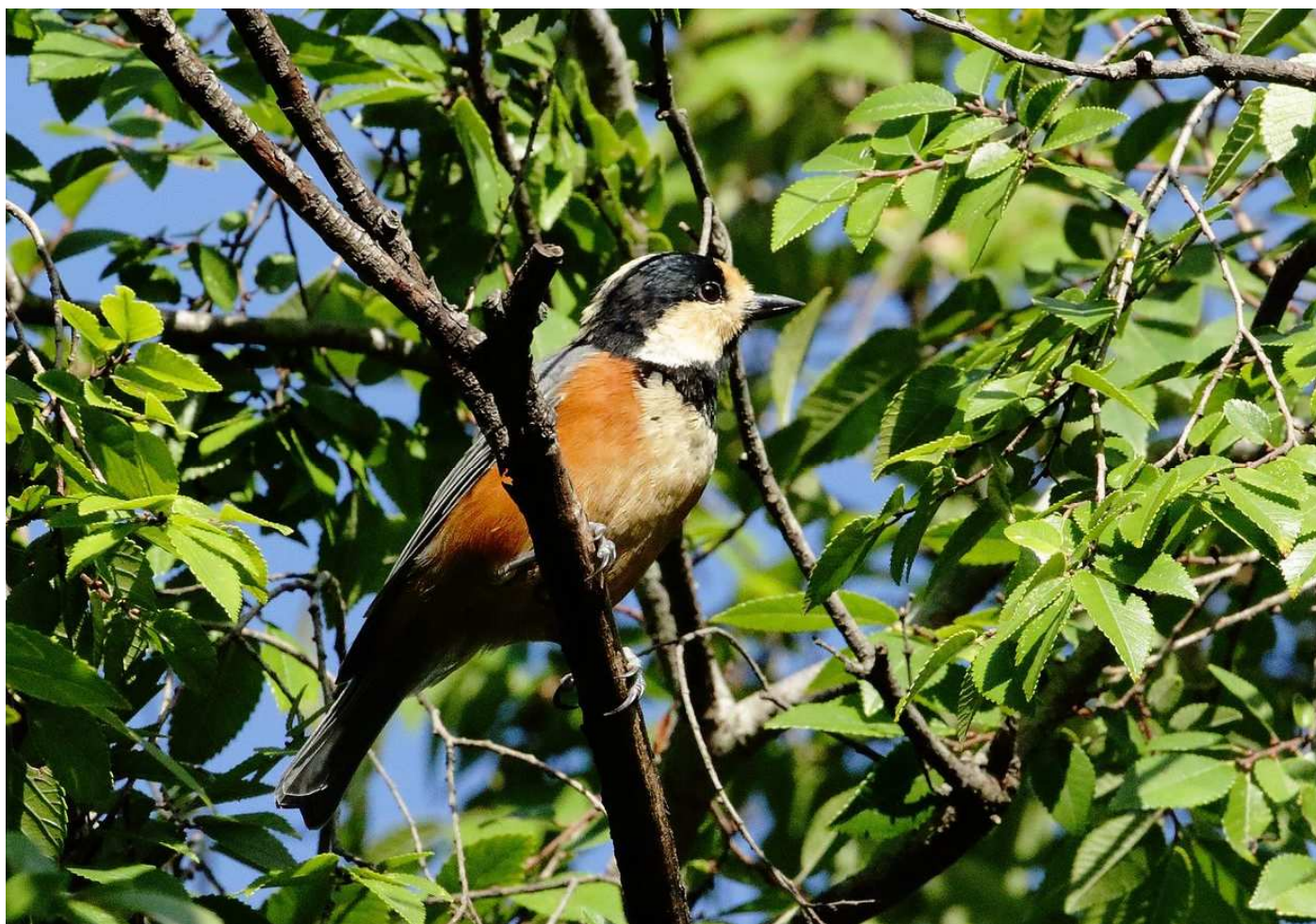


万博公園探鳥会

2022年9月10日(土)

リーダー 田中宏・中筋好子・橋本昌宗・大矢麻由美
有賀憲介・橋本寿紀・平軍二(090-6901-1425)



1. 千里の鳥・万博の鳥「ヤマガラ」

↑有賀憲介氏 (20220819)

真夏の日々にクマゼミが謳歌していた万博公園、主役がツクツクホウシに変るころ、暑さで静かにしていた鳥たちも元気を取り戻しヒヨドリの声が響き、ヤマガラも姿を見せるようになった。

今回写真で紹介するヤマガラは体長 14 cm、同属のシジュウカラとほぼ同じ大きさのシジュウカラ科の小鳥である。

ヤマガラはエゴノキの実が好きで、エゴノキの木近くで待っていると、数分ごとに飛んで来て、実をついばんで飛び去って行く。エゴノキは果皮に毒(エゴサポニン)があり、人が実を噛んでみると、唇や舌がひりひりと痛くなるほどで、「エゴノキ」の名前の由来となったえぐみ(=不快な苦味)がある。ヤマガラは足指にエゴノキの実を挟んで嘴でコツコツ音を立てながらつついているが、毒のある表皮を避け、中の果肉を食べていることがわかる。

また秋から冬、ヤマガラはシジュウカラ・エナガ・メジロ・コゲラなどと一緒に「カラの混群」と呼ばれている、群での行動が良く観察できる。群の鳥たちはそれぞれ自分の好むエサを見つけて食べながらも、群から大きく離れることなくまとまって行動している。これは鳥によっていろんな能力や特徴を持っているので、

- ・自分たちを狙う敵(タカなど)を発見しやすい
- ・餌を見つけやすい

などの利点があり、互いに利用しあっているとされている。

群のリーダー(移動するときの先頭)はエナガで、しんがり(最後)はコゲラである。

「エゴノキ」という良い餌場を見つけたヤマガラが、群での行動から外れているのではないかとと思われるが、確認できていない。

2. 8月モニタリング結果より

8月定例会は夏休みとしたが、暑さが和らいだ8/27にリーダーのみでのモニタリングを実施した。これまで周辺では何回か見ていたイソヒヨドリ、園内に定着し始めたのか、2羽が下の広場東側のクスノキ周辺を飛び回っていた。また日本庭園休憩所からは大阪大学学舎屋上に休んでいたチョウゲンボウを確認したが、カラスのモビングを受け飛び去った。秋の渡り鳥を期待したが、太陽の塔西側でムシクイを観察するも種の同定に至らなかった。ヤマガラがエゴノキの実を食べに来ている所、色づく前のモミジの中で大きな獲物(幼虫)を食べているシジュウカラなどがいて、トータル 28 種を確認した。

3. 万博公園自然文化園を大幅改変中

万博公園の樹林改変についての情報です。万博公園に大阪府絶滅危惧植物を中心に、「レッドリストすいた2021」でAランク(吹田市として絶滅危惧種)にリストアップした希少植物(野草)が11種ある。万博の森の改変計画の場所に、ラン科植物タシロラン群生地があったため、森の改変を計画される万博公園緑整備部会の先生や、万博公園事務所担当にタシロラン最盛期と思われる6/29にタシロランを見てもらおうと計画したが、今年は6月下旬に快晴の猛暑日が続く、タシロランが芽生えていなかった。

一週間遅らせ7/6に開催するも、株数は少ないもののタシロランを見ることができたので、今後の樹林改変の検討時に「希少植物と森づくりのバランス」をとってもらえると思われ。

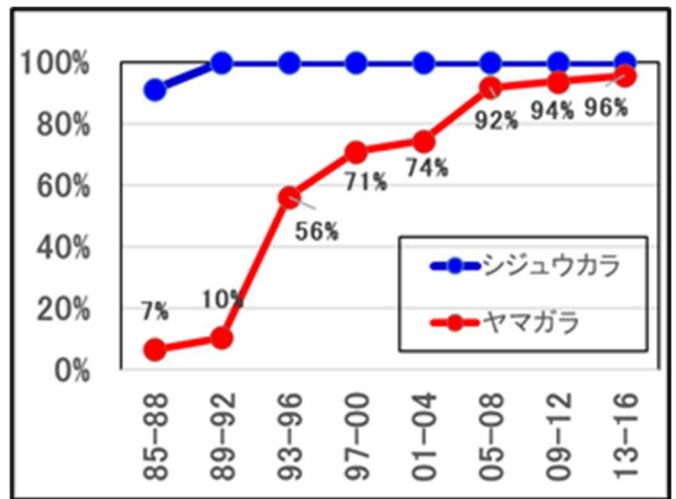
4. 万博公園の鳥今昔

1985年から37年間の万博公園探鳥会で見た鳥の変化を、報告中である。

①ヤマガラ・シジュウカラの観察頻度

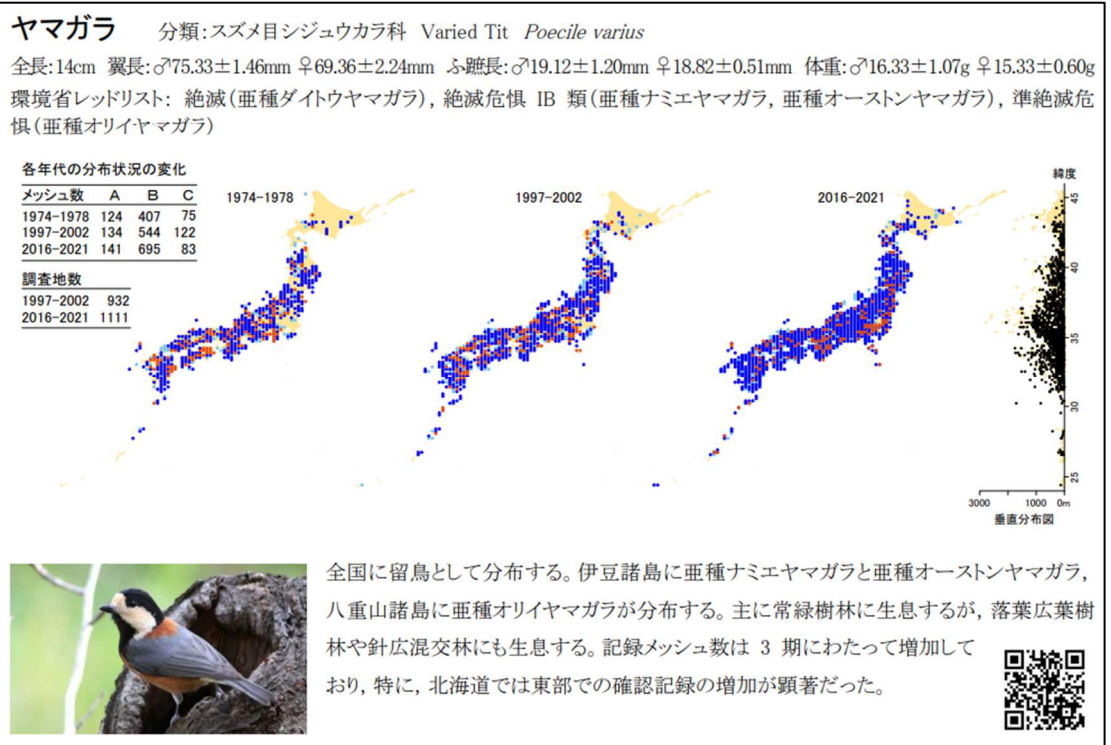
→→

シジュウカラは探鳥会を始めた最初から毎回観察できたのに対し、ヤマガラはほとんど観察できなかった。その後ヤマガラの観察頻度が年々上昇し、最近ではシジュウカラ同様、毎回観察できる留鳥となっている。関西近郊の林にすむ鳥として、ヤマガラ・シジュウカラと並び称されどこにもいる鳥と思っていたが、万博公園のヤマガラは樹林の生長を知る物差し鳥となっていた。



②全国鳥類繁殖分布調査結果

万博公園では樹林の変化で増加しているヤマガラ、全国の繁殖状況を2021年に公開された「全国鳥類繁殖分布調査結果」で確認した。この調査では①1974-1978年、②1997-2002年、③2016-2021年と約20年ごとに行われた3回の調査結果が比較されている。



分布状況の変化 ←

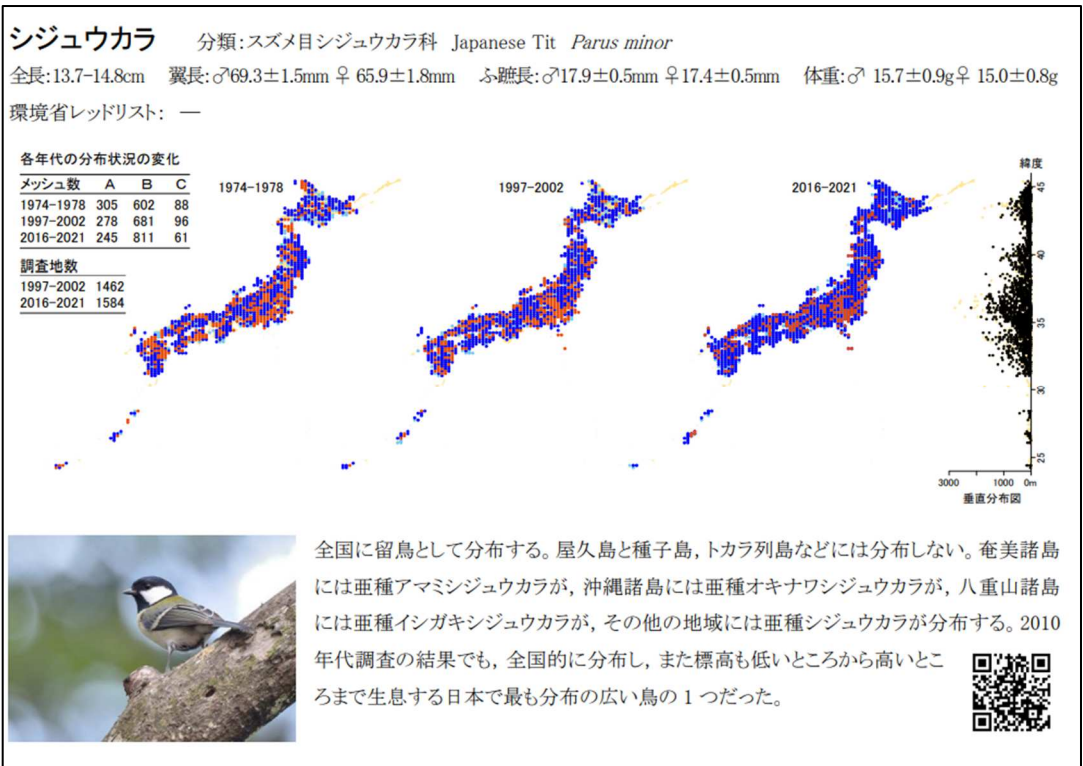
(メッシュ数 A+B+C)

1974-1978 606 ムッシュ

1997-2002 800 ムッシュ

2016-2021 919 ムッシュ





分布状況の変化 ←
 (メッシュ数 A+B+C)
 1974-1978 995 メッシュ
 1997-2002 1,055 メッシュ
 2016-2021 1,117 メッシュ

全国鳥類繁殖分布調査報告(日本のと鳥の今を描こう)2016-2021年 2021.10.24 鳥類繁殖分布調査会

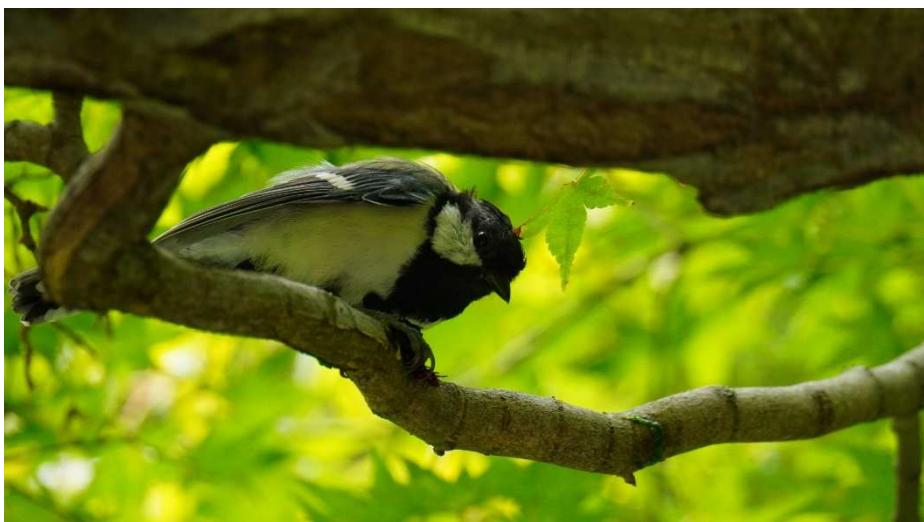


↑ヤマガラ (20220827 万博公園・橋本昌宗) シジュウカラ↓

③全国調査報告から

・ヤマガラ

北海道や本州東北部では少なかったが、現在拡大中である。
 これは常緑樹林を中心に生息していたヤマガラが、北国や標高の高い所に多い落葉樹林でも繁殖し始めたためと推定される。



・シジュウカラ

常緑樹林・落葉樹林とも生息しているが、1970年代に比べて更に繁殖範囲を拡大中である。

5. 万博公園探鳥会観察種 チェックリスト

種 名		4	5	6	7	8	9	種 名		4	5	6	7	8	9
		9	14	11	9	27	10			9	14	11	9	27	10
1	24	オシドリ						50	463	ヒヨドリ	27	8	6	12	9
2	26	オカヨシガモ	1					51	464	ウグイス	9	12	3	5	
3	27	ヨシガモ						52	465	ヤブサメ					
4	28	ヒドリガモ						53	466	エナガ	4	10	6	4	7
5	30	マガモ		3				54	477	メボソムシクイ					
6	32	カルガモ	24	14	2	8	7	55	479	エゾムシクイ					
7	35	オナガガモ						56	480	センダイムシクイ					
8	38	コガモ						57	485	メジロ	25	6	8	20	19
9	42	ホシハジロ						58	492	オオヨシキリ					
10	46	キンクロハジロ						59	501	ヒレンジャク					
11	58	ミコアイサ						60	506	ムクドリ	23	18	9	88	2
12	62	カイツブリ	9	8	3	14	5	61	508	コムクドリ					
13	74	キジバト	13	12	3	5	2	62	514	トラツグミ					
14	78	アオバト	1	2				63	521	シロハラ	22				
15	127	カワウ	9	11	5	2	3	64	522	アカハラ	2				
16	139	ゴイサギ						65	525	ツグミ	26				
17	144	アオサギ	1	1	1	2	2	66	530	コマドリ					
18	146	ダイサギ	1					67	536	ルリビタキ					
19	148	コサギ		1				68	540	ジョウビタキ					
20	174	バン					2	69	542	ノビタキ					
21	175	オオバン	1					70	549	イソヒヨドリ					2
22	187	ツツドリ						71	552	エゾビタキ					
23	192	アマツバメ						72	554	コサメビタキ					
24	195	ケリ						73	558	キビタキ		5	3		
25	202	イカルチドリ						74	561	オオルリ	1				
26	203	コチドリ						75	568	ニューナイスズメ	2				
27	219	タシギ						76	569	スズメ	31	49	33	102	33
28	244	イソシギ						77	573	キセキレイ					1
29	286	ユリカモメ						78	574	ハクセキレイ	4	4	1	3	34
30	339	ミサゴ						79	575	セグロセキレイ	2	2	3	3	3
31	340	ハチクマ						80	580	ビンズイ					
32	342	トビ	2					81	584	タヒバリ					
33	354	ツミ						82	586	アトリ	12				
34	355	ハイタカ						83	587	カワラヒワ	21	16	14	46	1
35	356	オオタカ						84	600	シメ	3				
36	357	サシバ						85	602	イカル	2		1		1
37	358	ノスリ						86	610	ホオジロ					
38	383	カワセミ		1	2	1	3	87	617	カシラダカ					
39	390	コゲラ	6	6	5	1	4	88	624	アオジ	7				
40	401	チョウゲンボウ	1				1	89		ドバト	○	○	○	○	○
41	407	ハヤブサ						90		ソウシチョウ	2				
42	412	サンショウクイ						91		カッコウSP					
43	418	サンコウチョウ						92		ムシクイSP					1
44	420	モズ						93		タカSP					
45	435	ハシボソガラス	4	17	12	18	14	94							
46	436	ハシブトガラス	127	23	13	31	33	種類数(種)		37	27	24	22	28	
47	442	ヤマガラ	6	6	5	4	11	個体数(羽)		477	277	156	383	219	
48	445	シジュウカラ	36	24	10	7	14	天候		晴	晴	曇後雨	晴時々曇	曇時々晴	
49	457	ツバメ	10	15	8	7	4	参加者数(人)		5	12	16	10	5	
50	459	コシアカツバメ		3			1								

次回 10月8日(土) 9:30 自然文化園中央口(日本野鳥の会 HP fomuzs 方式でお申し込みください。)

(500系新幹線開発を担当された、JR西日本OBの仲津英治さんが来てくださる予定)